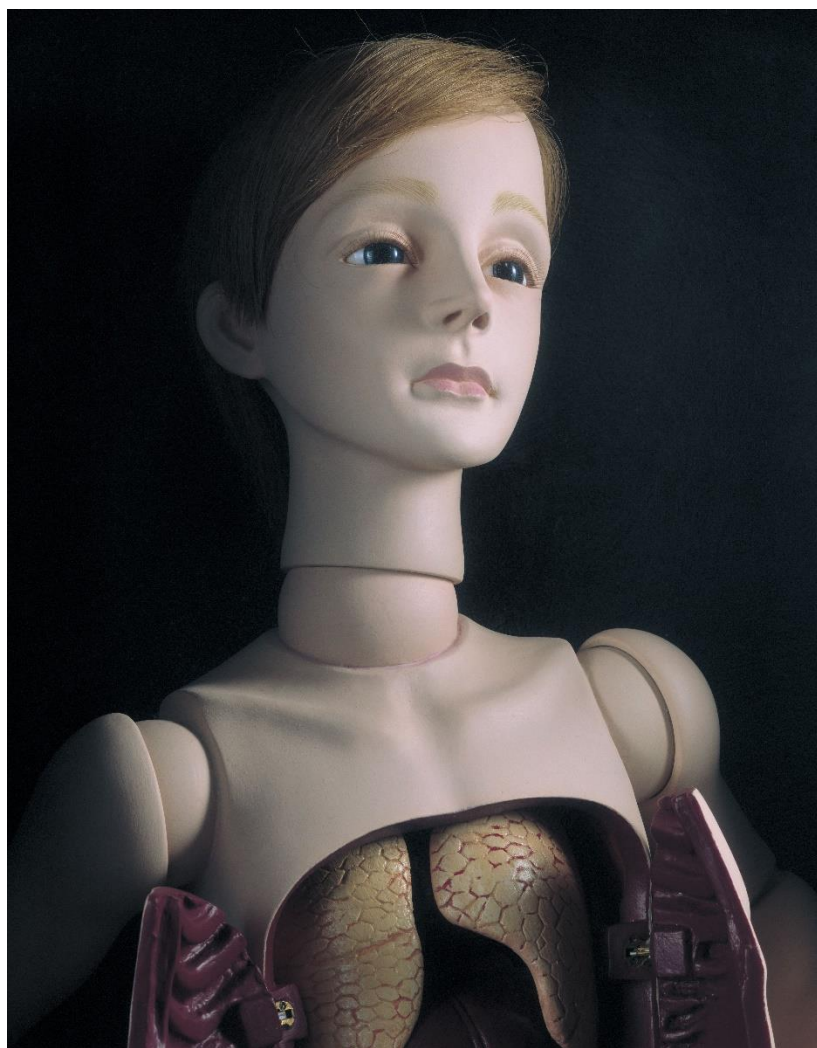


こどもとおとなの自由研究 工芸の○△□×展

Free Inquiry for Kids & Adults: ○△□× for Crafting Crafts

2022年7月5日〔火〕－9月4日〔日〕



四谷シモン《解剖学の少年》
1903年
東京国立近代美術館蔵

開館時間：午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで

＜夜間開館＞ 7月8日（金）～8月13日（土）の毎週金曜土曜は午後8時まで開館

休館日：月曜日（ただし7月18日は開館）、7月19日（火）

観覧料：一般 300円（250円）／大学生 150円（70円）

※（ ）内は20名以上の団体料金および割引料金 ※いずれも消費税込

○無料対象：

高校生以下および18歳未満、65歳以上、MOMATパスポート・学パスをお持ちの方、
友の会・賛助会員の方、MOMAT支援サークルパートナー企業（同伴者1名まで、
シルバーパートナーは本人のみ）、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方と付添者（1名）

○割引対象：

石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・石川県立伝統産業工芸館（いしかわ
生活工芸ミュージアム）・金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券、
ならびにSAMURAIパスポート（一般のみ）を窓口で提示した方。

主催：東京国立近代美術館

掲載用問い合わせ先：050-5541-8600（ハローダイヤル）

※オンラインによる事前予約（日時指定・定員制）を導入します。若干数、当日券もご用意しています。
詳細は公式WEB（<https://www.momat.go.jp/cg/>）でご確認ください。

作品のなかの○△□×～いくつかみつかる？奥までたどれる？

展覧会概要

○に△、□に×。もっとも基本的な図形や記号として、日頃から見慣れ、使い慣れたイメージではないでしょうか。工芸を観察すると、ここでも実にさまざまな○や△、□や×に出合います。たとえば曲輪造りの盛器。ガラスピッチャーのシャープな注ぎ口。サイズ、用途も豊富な箱。素材のしなやかさを頼みに、たわめ、ギリギリの力加減で組み合った状況が並ぶ籠目など、いずれも使い手と作り手双方が描く「こうしたい」と願うイメージを実現するために、それもより善く、さらなるカッコイイを目指した結果、浮かび上がった○△□×です。

工芸をめぐる数々の秘密を○△□×のフレームを通して読み解くこと。それがこの夏、工芸館から皆さんに送るミッションです。子どもと大人がそれぞれのペースで、あるいは力をあわせて挑戦しませんか？お助けツールのほか、楽しく学べるプログラムを各種用意してお待ちいたしております。

展覧会のポイント

- ▶ 身近な人たちのフレーミングだから気軽にはじまる「あった」や「見つけた」。
美術館ビギナーのちびっ子ちゃんから大人まで、リラックスできる鑑賞体験を。
- ▶ ○△□×に集約された工芸の歴史や物理化学的特性、そして作家の想い。
学校の課題のヒント探しはもちろん、学びの楽しさを大人の方にも。
- ▶ 紙とデジタルのセルフガイドで“自由研究”を深めよう。
小学生以下には工芸館オリジナル「ジロメガネ」をプレゼント(先着1,000名)。

こうげいかんで楽しみっしょん

① 探す・見つける・見えてくる

まずは肩の力を抜いて作品を眺め、○△□×を探しむこと。

そのうち○だと疑わなかったものに□みを感じたり、1つ2つどころか5つ6つ…というか無数！？と唖然としたり。発見の喜びが連れてくるひらめきとスリルを楽しみましょう。

② 味わう・感じる

次は○△□×が発散するエネルギーを味わうこと。

○の循環、△のスピード、□の安定、×の広がり…シンプルさの中に厳選・圧縮された力を皆さんの感性で解き放ちましょう。そしてなぜそのかたちが選ばれたのかを想像して。思いめぐらせたその先で、つくり手の眼差しと向かい合う瞬間があるかもしれません。

③ 知って・驚く

ガイドツールで鑑賞チップ(ヒント)を集めること。

○△□×は姿かたちだけでなく、構造の奥の奥にも潜んでいたりする。心の琴線に触れた美しさやカッコよさは案外そんなところから来ているのかも。実はとっても見えていたご自分の目の良さ、勘の鋭さにも驚いてください。

広報用画像一覧



箱入りボーイの関節に注目。今にも動きそうな仕草で誘惑しながら、触れないもどかしさがなおさら強く心を引き寄せる。

図版No.1 (左)、No.2 (上)
四谷シモン《解剖学の少年》
1983年
東京国立近代美術館蔵

狂いの少なさをねらって創意工夫した曲輪ボディ。重なる円環のデザイン性は松田権六に無限の可能性があると称賛された。

図版No.3 (下)
赤地友哉《曲輪造彩紅盛器》
1960年
東京国立近代美術館蔵

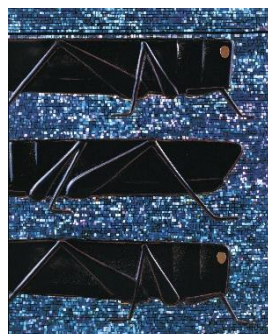


〇△□×を共存させたスーパーテクニック。叩き上げてつくった陰影の美にしばれます。

図版No.4 (上)
関谷四郎《赤銅銀十字線花器》
1975年
東京国立近代美術館蔵

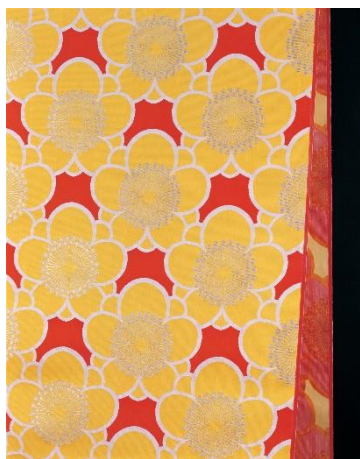
とんがり屋根の蓋つきの箱。角から突き出た羽根で浮き立ちそう。開ける前からワクワクさせるこの箱に、あなたなら何を入れる？

図版No.5 (右)
川口淳《Box-Pandora》
1994年
東京国立近代美術館蔵



一般的に螺鈿はモチーフのかたちを切り抜いて加飾することが多い。が、ここではバッタの背景を極小の□□□□で埋め尽くした。切って貼った各ピースの「極小」加減。誇張ではないことを実物を前に震えよう。

図版No.6 (左)
田口善国《野原蒔絵小箱》(部分)
1968年
東京国立近代美術館蔵



人間国宝のWタイトルの作者が仕掛けた染織の歴史への挑戦状？裂一枚にこめられた〇△□×のヒミツとは…

図版No.7 (左)
北村武資《経錦帯「春苑」》(部分)
2012年
東京国立近代美術館蔵

半分に割った白竹を開いて大人数人がかりで組み上げた作品に与えられた名前の意味は「虎の檻」。制作にかけた力や音も想像しながらこの迫力の1点を味わいたい。

図版No.8 (右)
生野祥雲斎《虎園》(部分)
1959年
東京国立近代美術館蔵



上記画像No.1～8を広報用にご提供いたします。
ご希望の方は当館ホームページの画像提供システムよりお申し込みください。

<https://www.momat.go.jp/cg/ncm-photo>



* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券(5組10枚)をご用意しております。
ご希望の方は画像申請の際に「その他」欄よりお知らせください。

展覧会関連イベント

とびだせ！〇△□× / フワフワ？ボンボン？〇×ボール / 〇△□× 自由研究所 /
工芸館の中でも外でも #〇△□× / 工芸トークオンライン を予定。

※開催日時等詳細は国立工芸館ホームページにて告知(2022年6月頃)

※イベント名はいずれも仮称(工芸トークオンラインを除く)

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって中止またはオンライン開催への変更の可能性があります。

記者発表会・内見会

一般公開に先駆けて報道関係の皆さまのみの発表会、および内見会を行います。

7月4日(月) 11:30~13:00(受付開始11:30)

参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでご連絡ください。

次回展予告

2022年9月16日(金)~12月4日(日)
ジャンルレス工芸展

近年、ジャンルにこだわらず工芸素材と技術を用いて自身の表現を追求するという作家が増え、新しい文脈で工芸が再評価されています。本展は、当館所蔵作品を中心に、「地域」「デザイン」「現代アート」という三つの視点で見直してみることで、ジャンルを問わず、作家の表現に触れる機会となることでしょう。

稲垣稔次郎《木綿地型絵染壁掛 虎》(部分) 1960年 東京国立近代美術館蔵



〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
<https://www.momat.go.jp/cg/>

アクセス:

バスにて

JR金沢駅兼六園口(東口)より

【北鉄バス】

3番乗り場:18系統に乗車、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分

7番乗り場:どの系統でも乗車可、

「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分

6番乗り場:乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分

車にて

北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20~30分。

近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。



公式HPIはこちら

報道関係の方のお問い合わせ先

国立工芸館 展覧会担当/今井 広報担当/小島・藤田
Tel:076-221-1955(広報直通) E-mail:kogei-pr@momat.go.jp